

常時監視測定結果及び窒素酸化物等の排出量の推移について

- 1 二酸化窒素の環境基準達成状況及び濃度（年平均値・98%値）の経年推移について
 二酸化窒素の環境基準達成状況及び濃度（年平均値・98%値）の経年推移は、図1～3のとおりである。

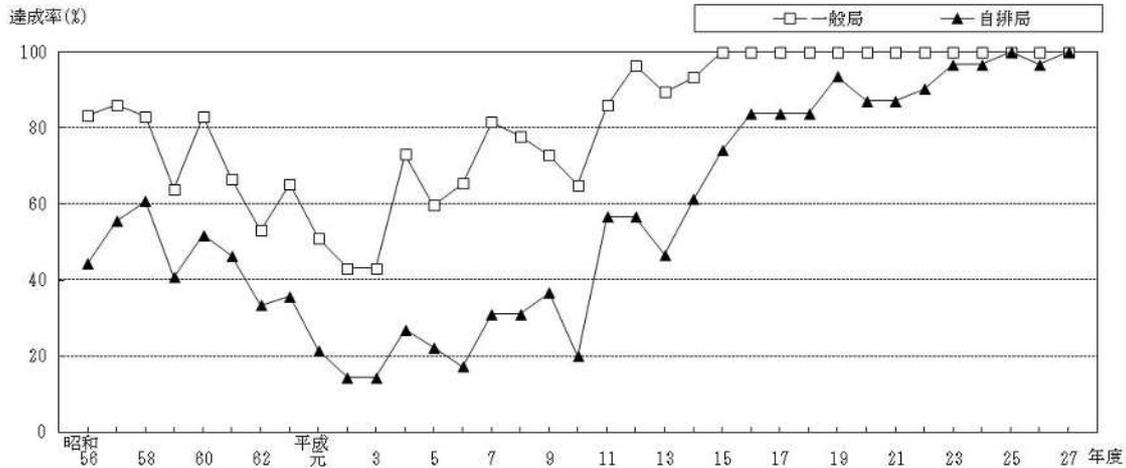


図1 NO₂に係る環境基準達成率の経年推移

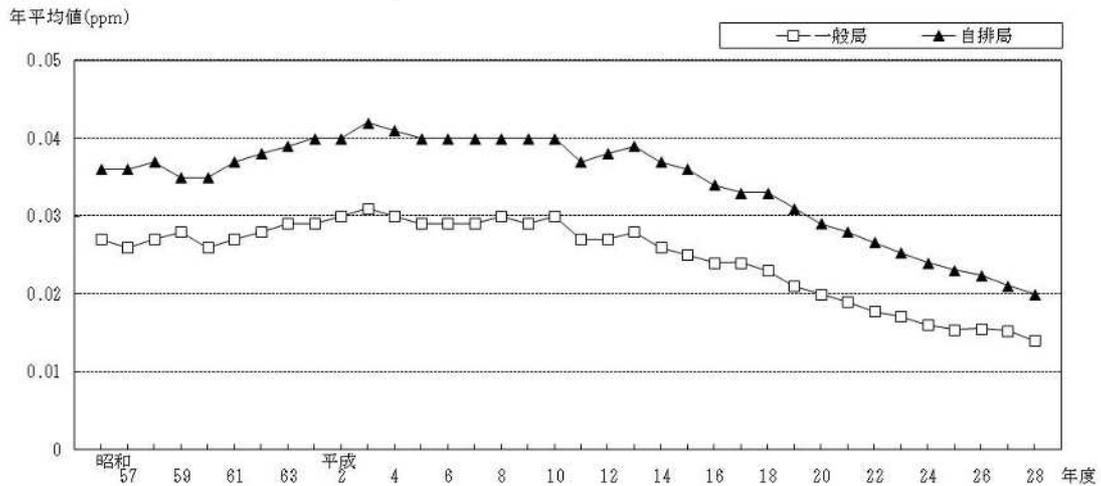


図2 NO₂濃度の年平均値の経年推移

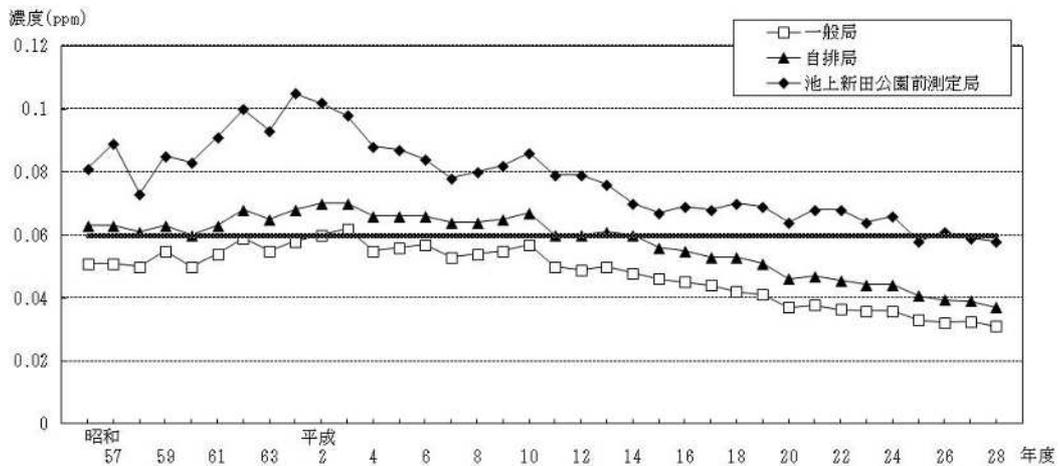


図3 NO₂濃度の98%値の経年推移

2 浮遊粒子状物質の環境基準達成状況及び濃度（年平均値・2除外値）の経年推移について
 SPM の環境基準達成状況及び濃度（年平均値・2%除外値）の経年推移は、図4～6の
 とおりである。

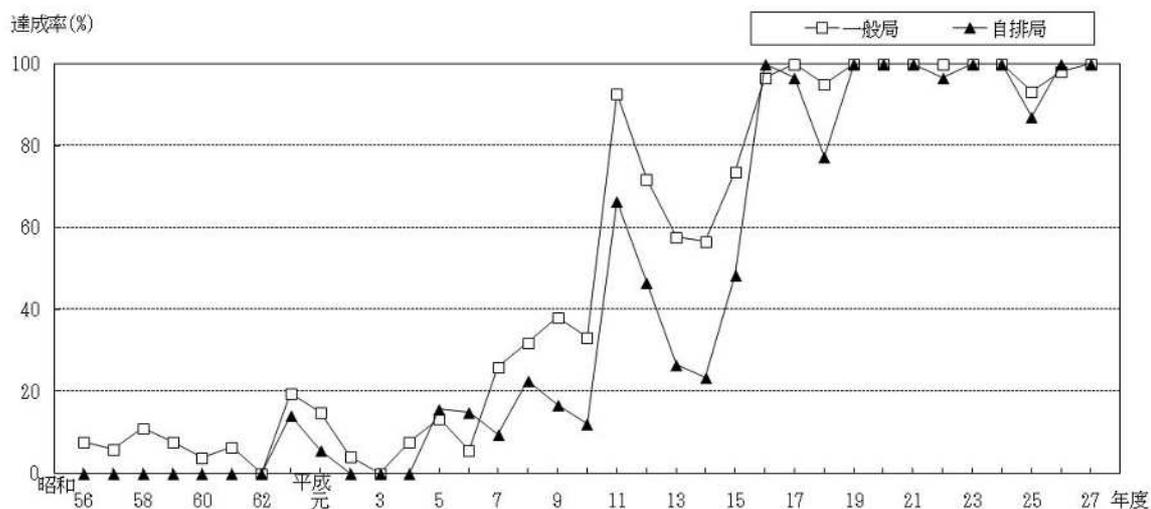


図4 SPMに係る環境基準達成率の経年推移

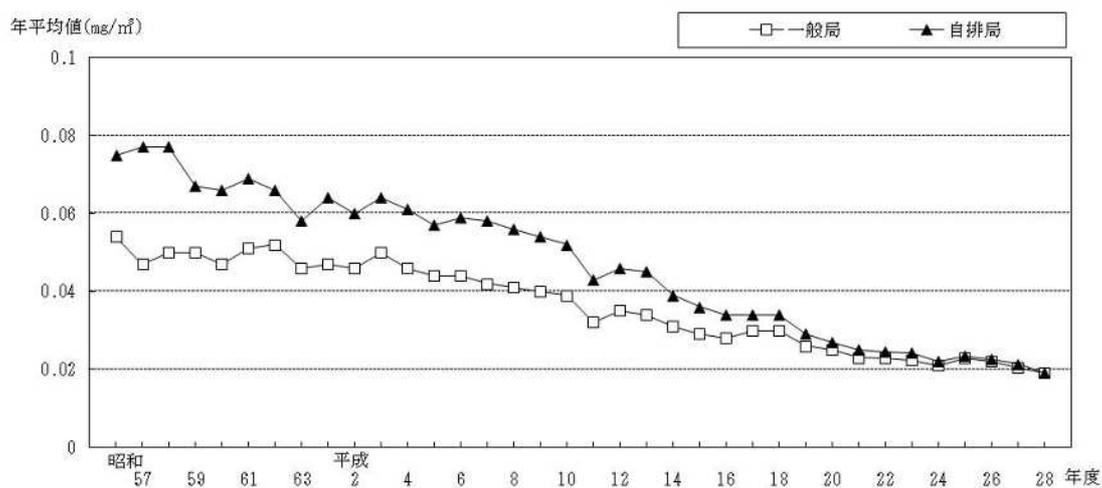


図5 SPM濃度の年平均値の経年推移

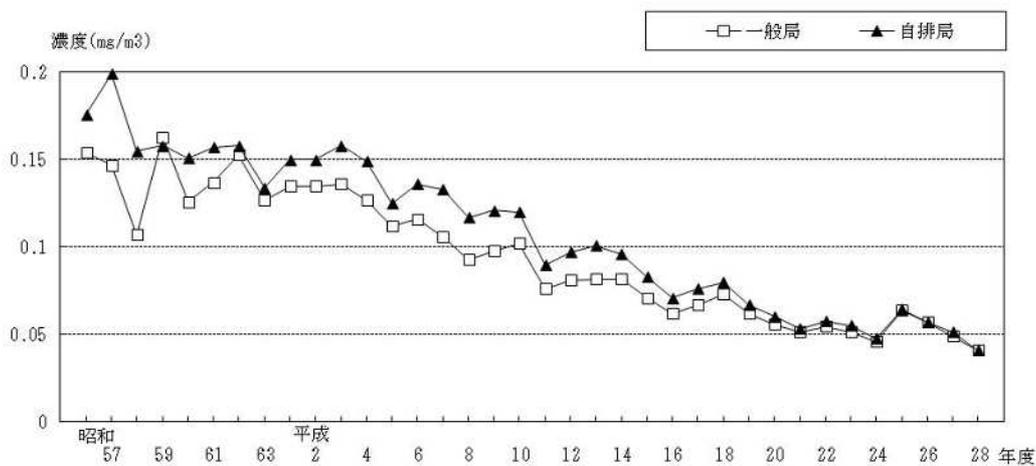


図6 SPM濃度の2%除外値の経年推移

3 窒素酸化物の排出量の経年推移について

窒素酸化物の排出量の経年推移は、図7のとおりである。

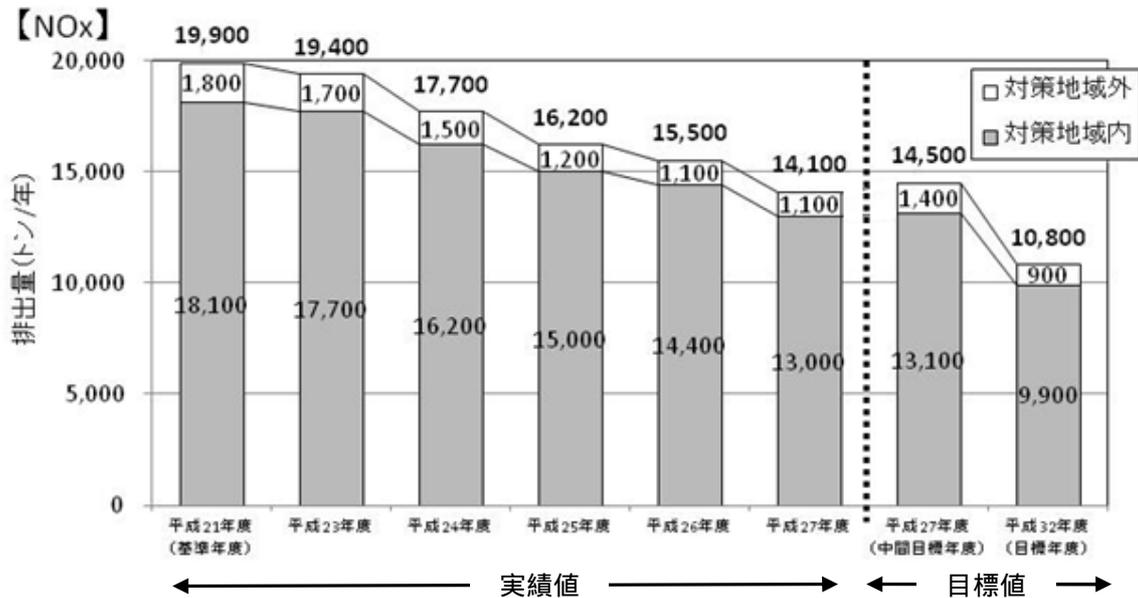


図7 窒素酸化物の排出量の経年推移

4 粒子状物質の排出量の経年推移について

粒子状物質の排出量の経年推移は、図8のとおりである。

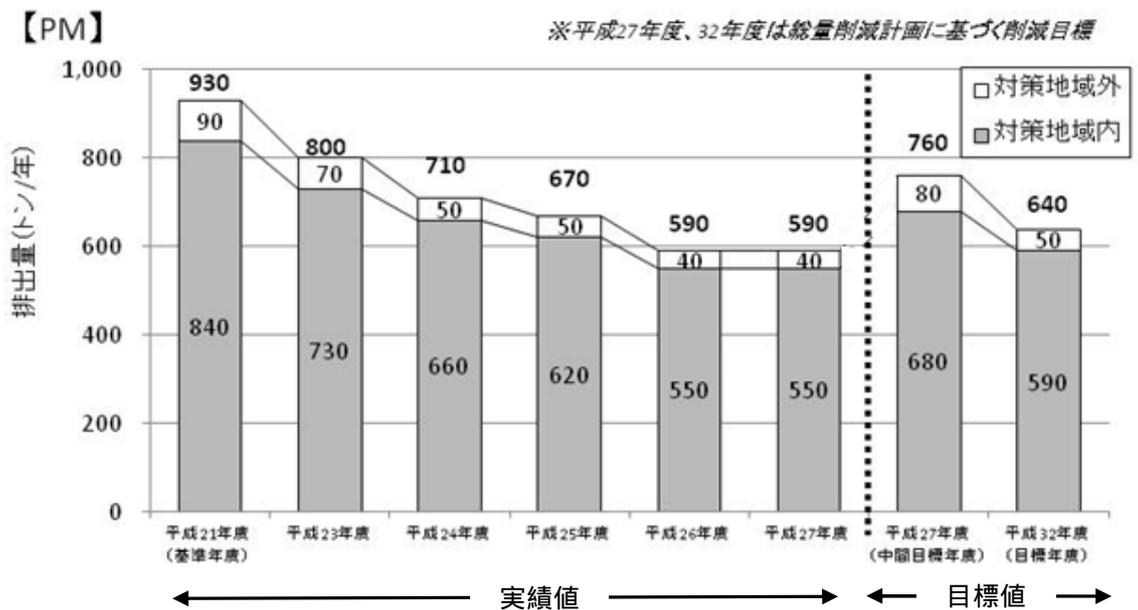


図8 粒子状物質の排出量の経年推移

窒素酸化物等の排出量及びディーゼル車の排出ガス規制の強化等の推移について

1 窒素酸化物の排出量の経年推移について

窒素酸化物の排出量の経年推移は、図1のとおりである。

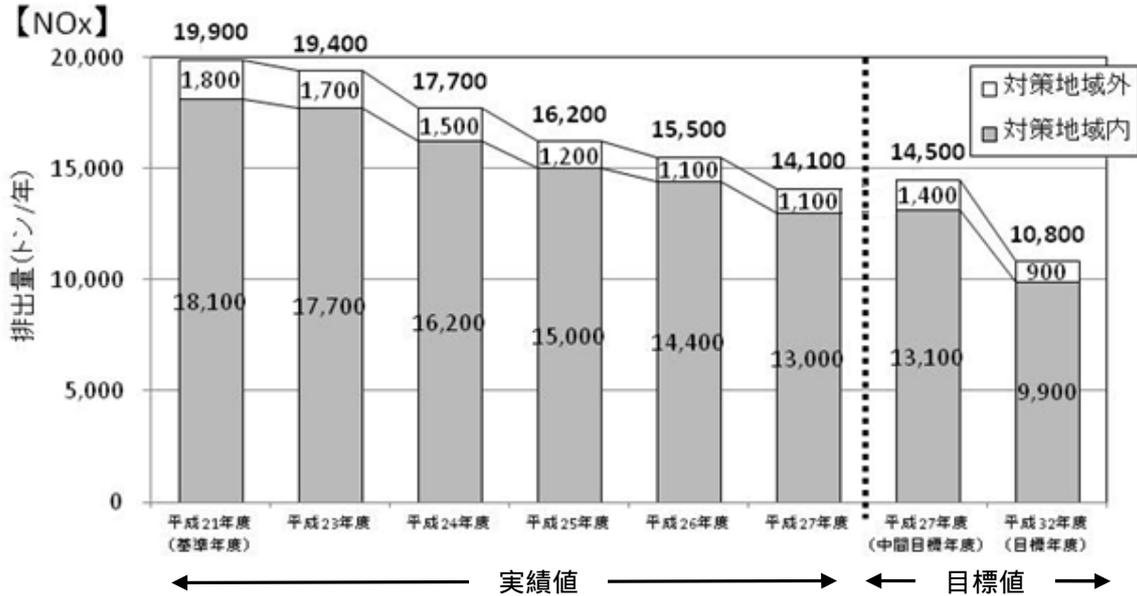


図1 窒素酸化物の排出量の経年推移

2 粒子状物質の排出量の経年推移について

粒子状物質の排出量の経年推移は、図2のとおりである。

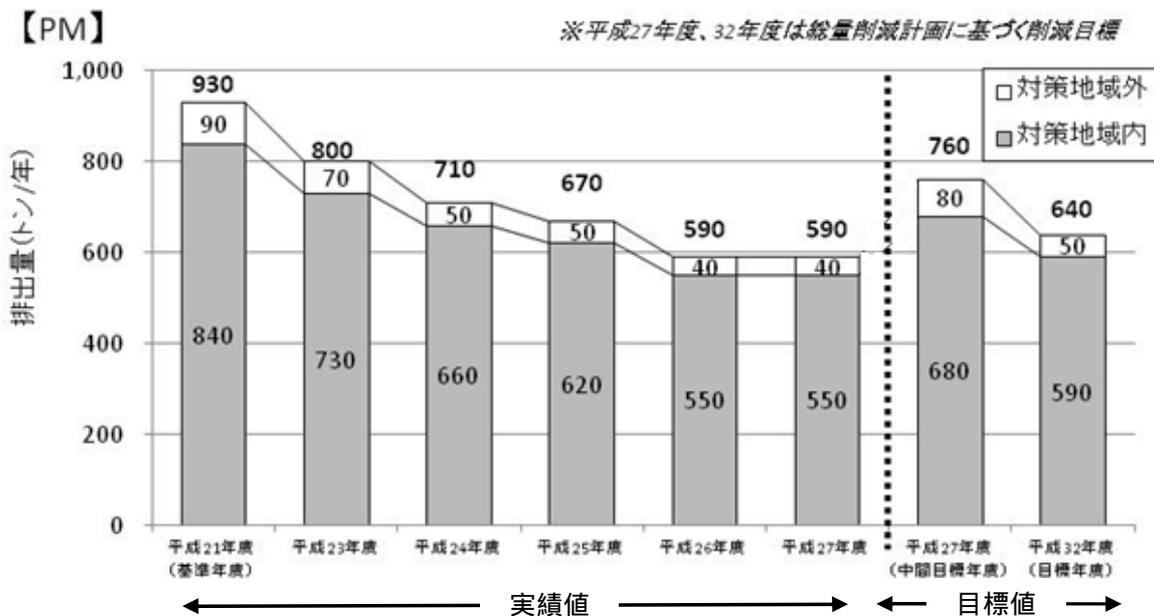


図2 粒子状物質の排出量の経年推移

3 ディーゼル重量車の排出ガス規制の強化について

ディーゼル重量車に対する排出ガス規制の強化の推移は表 1 に示すとおりである。

表 1 ディーゼル重量車（新車）に対する排出ガス規制値

規制年		平成9～11年 (1997～1999)	平成15～16年 (2003～2004)	平成17年 (2005)	平成21～22年 (2009～2010)	平成28年 (2016)
規制値 (認証基準)	NO _x	4.50g/kWh	3.38g/kWh	2.0g/kWh	0.7g/kWh	0.4g/kWh
	PM	0.25g/kWh	0.18g/kWh	0.027g/kWh	0.010g/kWh	0.010g/kWh
試験モード		ディーゼル13モード		J E05モード		WHTC及び WHSCモード
備考		長期規制	新短期規制	新長期規制	ポスト新長期規制	

車両総重量3.5t(新短期規制までは2.5t)を超えるトラック・バスにおける規制値

4 普通貨物車及び特種（殊）車の規制年別構成率（走行ベース）の推移について

普通貨物車及び特種（殊）車の規制年別構成率（走行ベース）の推移は図 3 及び 4 の通りである。

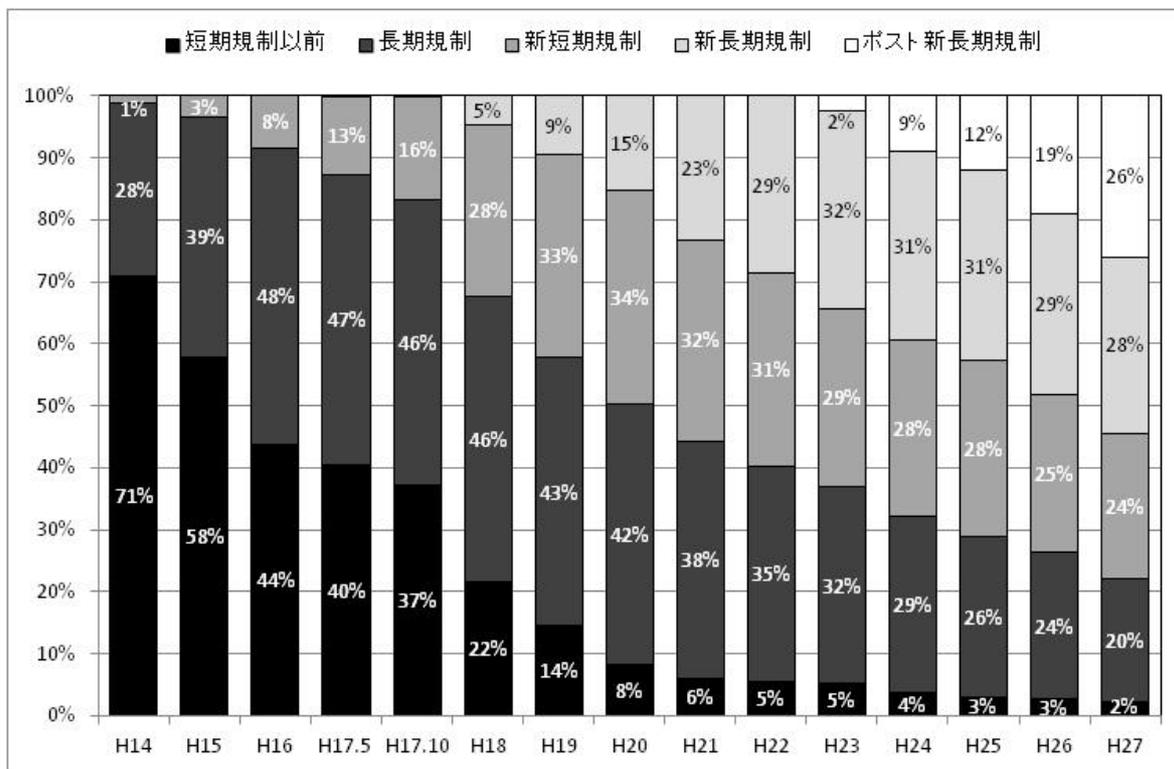


図 3 普通貨物車の規制年別構成率の推移（走行ベース）

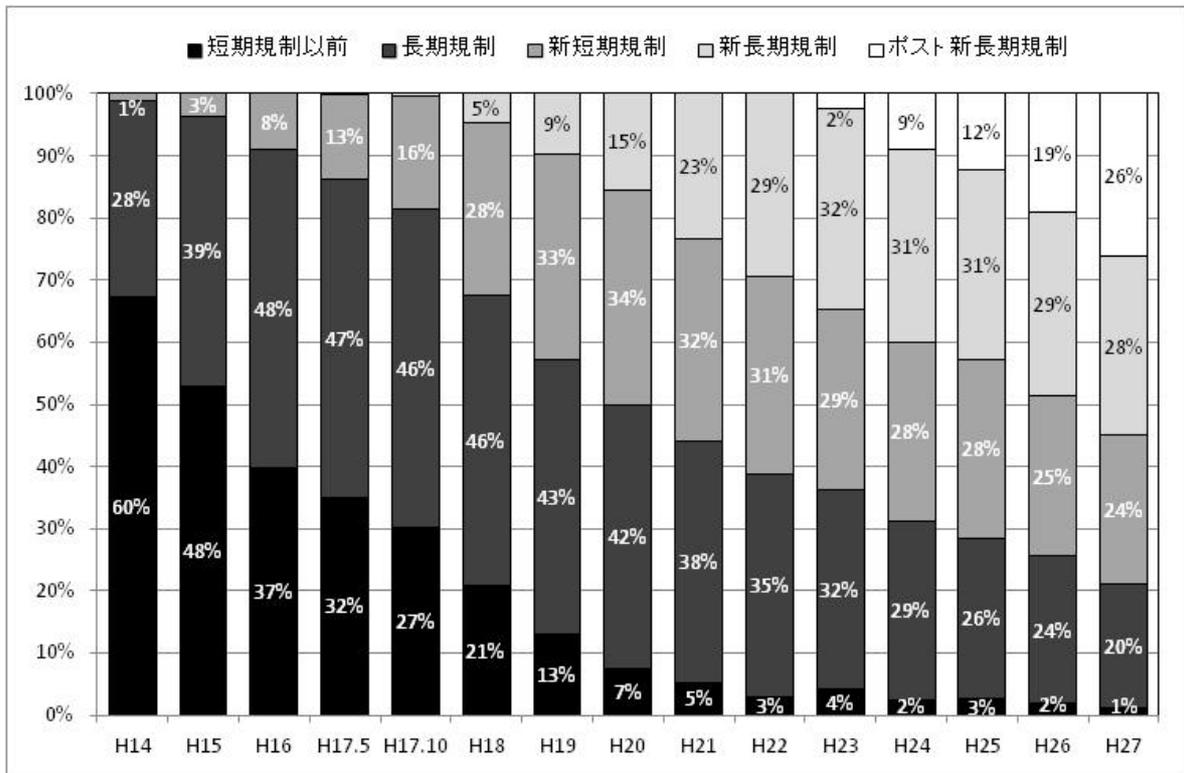


図4 特種（殊）車の規制年別構成率の推移（走行ベース）

5 厚木市内の自排局における二酸化窒素の濃度の推移

厚木市内の自排局における二酸化窒素の濃度の推移は表2のとおりである。

表2 厚木市内の自排局におけるNO₂濃度の推移

(単位：ppm)

測定局名		H23	H24	H25	H26	H27
厚木市金田	98%値	0.046	0.047	0.043	0.042	0.041
	年平均値	0.030	0.030	0.027	0.027	0.026
国設厚木	98%値	0.044	0.044	0.043		
	年平均値	0.030	0.030	0.029		

6 国道 129 号における交通量の推移について

国道 129 号における交通量の推移は、表 3 のとおりである。

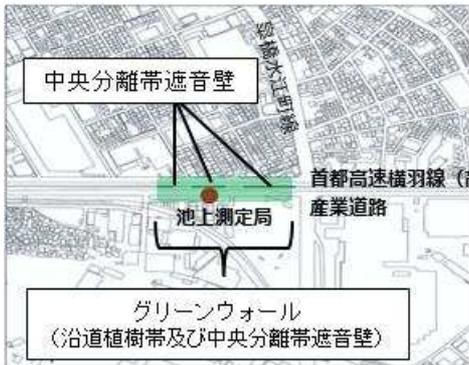
表 3 国道 129 号における交通量の推移

路線名	地点	年度	24時間交通量(台/日)									H9を 1とした 比率	大型車 混入率 (%)	昼夜率
			軽乗用	乗用	バス	軽貨物	小型貨物	貨客	普通貨物	特種(殊)	計			
一般国道 129号	厚木市 戸田131	H9	1,261	24,347	245	1,687	1,824	4,434	13,458	2,407	49,663	1.00	32.4	1.54
		H11	1,283	24,758	320	1,583	1,724	4,191	13,035	2,326	49,220	0.99	31.9	1.51
		H17	25,087		269	7,570			16,132		49,058	0.99	33.4	1.53
		H18	2,615	22,113	331	2,028	1,172	4,059	12,663	2,578	47,559	0.96	32.7	1.47
		H19	3,009	19,801	348	2,037	1,341	3,928	10,923	3,075	44,462	0.90	32.3	1.53
		H20	2,992	20,095	286	2,015	1,438	3,441	10,534	2,738	43,539	0.88	31.1	1.53
		H21	3,118	19,820	270	2,064	1,358	3,746	10,146	2,831	43,353	0.87	30.6	1.47
		H22	31,636		(大)	(小)			14,493		46,129	0.93	31.4	1.49
		H23	3,521	17,347	266	2,140	1,287	3,585	10,446	3,138	41,730	0.84	33.2	1.48
		H24	4,177	19,926	280	2,225	1,152	3,105	11,089	2,960	44,914	0.90	31.9	1.48
		H25	3,952	18,800	299	2,255	1,340	2,815	10,440	2,661	42,562	0.86	31.5	1.40
		H26	4,135	18,577	278	2,107	1,160	2,792	10,245	2,539	41,833	0.84	31.2	1.47
H27	4,321	18,884	272	2,197	1,182	2,800	10,413	2,617	42,686	0.86	31.2	1.50		

グリーンウォール（中央分離帯遮音壁）の改修について

1 グリーンウォールについて

グリーンウォールは、川崎市の産業道路沿道の大気汚染の改善を目指して、平成 5 年に産業道路の川崎臨港警察署前交差点から横浜寄り約 250m 区間において設置した沿道植樹帯及びツタを植栽した中央分離帯遮音壁です。



2 グリーンウォール（中央分離帯遮音壁）の改修内容及び環境影響変化

改修内容

遮音壁を 5 m から 2 m に改修

環境影響変化

- ・道路上や道路近傍で二酸化窒素濃度の低減を予測
- ・改修後も引き続き騒音に関する環境基準を達成する見込み

3 改修工事の実施日

平成 29 年 1 月 20 日～ 1 月 31 日（予定）



改修前



改修工事



改修後（予定）

改修工事前後に大気中の窒素酸化物濃度及び騒音レベルの測定を実施